



福音讃美歌ジャーナル

福音讃美歌協会

新しい歌を
主に歌え

■巻頭言■

JEACS（福音讃美歌協会）は福音派諸教会の礼拝のための新しい讃美歌集をつくろうとしています。

福音讃美歌協会副理事長 下川羊和

私は昨年よりこの協会に関わらせていただくようになりました。右も左も分からぬまま飛び込んだ、今年暮れを目指す讃美歌集の出版準備作業は、今も急ピッチで進められています。昨年秋には一般社団法人設立総会という記念すべき新しいスタートもありました。この働きが教會的な、継続的な働きを目指したものであることを実質的に保証する法的な進展でした。

これまで私が所属していた教会では、教會的な働きとして、讃美歌集編纂、出版を行ったことがありませんでした。しかし近年、各教派から新しい讃美歌集が出版され、それらを用いさせていただくことを通して、こういうことを「私たちのこと」として行わなければならないと実感するにいたりました。今までの伝統の遺産を重んじつつ、福音的、聖書的、教會的歌集であること、現代に即した平易な言葉で礼拝、賛美、祈りという信仰の行為を表現する道具を持つこと。これらの方向性を、会議、作業に参加させていただく中で、机上の論理ではなく、労を担っている御一人びとりが大切にしている思いとして、空気として感じさせていただいたことは感謝なことでした。

そして私が驚いていることに、この働きがオープンな空気を持っているということがあります。神学、音楽、文学、その他において非常に高度な専門的知識、見識を要する働き。様々の賜物を持った方の協力が必要です。しかしそのことが敷居の高さにはなっていない。なぜならこれらの総合力を全て持ち合わせた万能な人などいないからです。むしろある賜物に長けた複数の人が、互いを尊重しあい、へりくだって協力することがこの事業の成功の鍵ではないかと思っています。

どうぞこの働きをご理解くださり、また期待してください。そして、関心を持ち、祈り、支えてくださったら、それほどありがたいことはありません。福音讃美歌協会（JEACS）の働きは、まだ広く理解されていない所が多々あると思います。しかしこの事業は信仰を同じくするものがみな参加できる楽しい仕事でもあると思います。ともあれ今年度は最初の歌集の出版が目標です。そしてその後も、成熟を目指して一步一步進んでいくことでしょう。どうぞお祈りに憶えてくださり、ご協力ください。

「改訂作業に含まれる技術的なこと」

J E C A 糸井福音キリスト教会 有澤たまみ

1998年に始まったミエン語讃美歌改定事業は2002年12月末に完成の予定でしたが、長引きました。遅れた原因の多くは技術的（テクニカル）なことにあります。その主なものを見てみましょう。

正書法（文字）

正書法とは、ある言語において基準になる書き方のことです。日本語は漢字、ひらがな、カタカナという表意文字と表音文字を一つの文章の中で混用する方法がとられています。

ミエン語は①タイ文字を借りて表記する方法（タイ文字ミエン語）、②中国語のピンイン（音声表記）を借りてローマ字で表記する方法（新ローマ字）、③ローマ字でも大文字と小文字で異なる音価を表す方式（旧ローマ字）の三つがあります。すべて表音文字です。日本語のように一つの文章に3種類を混ぜて使うことはありません。タイ国のミエン族は①を使う若い世代と③を使う60歳代以上の世代がいます。アメリカのミエン族は②を使っています。

校正

委員会で訳文を確定し音節数を整えた後、次の過程は原稿の校正、誤字があるかどうか、一字一句慎重に読むことです。一人でできるものではありません。数人の人に見てもらわなければなりません。校正者の候補に挙がっている人達は、すでに、旧約聖書の校正に携わっていて時間が取れません。その校正者の方達を探すのに時間がかかりました。また、皆同じ時期に返送して来るわけではありません。とにかく、全員からの返送を待って、校正します。

校正者によって①「タイ文字ミエン語」が

得意な人、③「旧ローマ字ミエン語」が得意な人と、違いがあります。またアメリカのミエン族から送られて来るフィードバックは②新ローマ字で書いてあります。タイ国各地の校正者に約500曲の歌詞を送り、2-3ヶ月後に返送されてくる訂正を私はおもに①と③で読みました。タイ語学校教育を受けた人が①ですばやく校正を送って来ますが、タイ語文法に引きずられた語順に変わっていることがあるので気をつけなければなりません。これをチェックするのは主人に頼みました。他方で、③を使う校正者からのフィードバックは遅く届きますが、この人々は年配者で時間があり、オリジナルなミエン語の情報を加味してくださるので助かります。②を含めて3種類の正書法を使うということ自体が作業を複雑にしています。

レイアウト

その次の段階が、レイアウトです。読みやすい字の大きさ、字体、行間の幅、と細かく計算して印刷の幅、本の大きさ等を決めます。タイ国用はA5サイズになりました。ミエン語の印刷は旧ローマ字・新ローマ字・タイ文字の3種類別々の本を作ることになります。一語に使う文字数が3冊とも違うので、ギターコードの付く位置が当然ずれてきます。3冊で約1392曲のギターコードの編集です。

ギターコード

ミエン教会にはオルガンやピアノはありません。楽譜を読める人もいなければ、ピアノを習える経済力はありません。少しずつ若い世代が耳で聞いてキーボードを弾けるようになってきています。高校生が国境の町メーサーイに行って300バーツ（900円）のギターを買い、ニコニコして大切に抱きかかえて来

る姿などはしおらしいものです。

ギターが手に入る唯一の楽器という時代が20年ほど続いていたと思います。パイプオルガンやピアノがいつぱんに狂い再起不能になるような、ものすごい気温と湿度のもとでギターコードの位置を適切な語の上に付けて行きます。

原版作成、印刷

校正者から原稿が返送されて来るのを待つ間にレイアウトを準備する事になり、聖書翻訳でレイアウト経験済みのバージェス師の助けを借りて、試行印刷をしました。ところが、問題が出て来ました。私のコンピューターとバージェス師のコンピューターの相性？が悪く、レイアウトが思うようにいきません。また、コンピューターの画面上では正常なのに、レーザープリンターから印刷され出てくるものは突然2、3行抜けていたり、ある行と行の間がとんでもないほど空いてしまったりと、プリンターまでおかしくなっていました。トラブルに次ぐトラブルとド

キドキすることがいっぱい2003年、旧正月を迎えました。

妨害

その頃の祈りの課題はこうでした。「最終段階に入ったミエン語讃美歌改訂版作業ですが、様々なことが起こり、なかなか進みません。妨害、故障から守られ、作業に関わる人達の健康が守られますように、そして作業が完了しますようにお祈り下さい。

妨害は様々な形があります。雷、洪水、怪我、病気、訳文に関する意見の衝突、作業者の失意。これらが同時に重なることもあれば、一つを解決すれば次の問題が起こり連続するということもあります。何とかして神を讃美させまいとする力は現実でした。

けれども多くの方々に祈られて、2005年10月末、最終的に552曲を集録したミエン語讃美歌本が3種類の正書法で出版されました。

さて次の仕事は、552曲の全節を歌って録音しCDを作ることです。(完)

連載 IV

チャールズ・ウェスレー (最終回) 我が魂を愛するイエスよ

インマヌエル高津教会牧師・藤本満

前々回のエッセイでは、チャールズの賛美歌が説教のようであったと書きました。「格闘するヤコブ」のように十数節の詩を、ながながと歌い上げるとき、聴衆はヤコブのペヌエルの体験を、自分自身のことのように体験することができるほど、賛美歌の詩そのものが物語的に説教的に書かれ、歌うことによってその霊的な世界に引き込まれていくわけです。

前回のエッセイでは、チャールズの賛美歌の神学性を説明しました。特に、聖餐式の賛美歌を何百と記しているチャールズは、十字架の神学をそれらの詩に入れ込み、後の研究者が、そこからウェスレー兄弟の十字架の神学について博士論文を書くほどの内容を持っているのです。



Charles Wesley



John Wesley

今回は、もう一つ忘れてはならない、チャールズ賛美歌の側面を紹介します。それは、チャールズ独特のロマンチックな味わいです。一つ有名な例を取り上げてみましょう。

「わが魂を」 (『新聖歌』276、『讃美歌』273)

わが魂を 愛するイエスよ
波は逆巻き 風吹き荒れて
沈むばかりの この身を守り
天の港に 導き給え

Jesus, lover of my soul, let me to Thy bosom fly,
While the nearer waters roll, while the tempest still is high.
Hide me, O my Savior, hide, till the storm of life is past;
Safe into the haven guide; O receive my soul at last.

この有名な賛美歌は、『インマヌエル讃美歌』では、60-64番まで5つの旋律で歌われています。一つ解釈の問題があります。「Jesus, lover of my soul」は、普通に英語の流れで訳すと、「イエス、我が魂の恋する人よ」となります。チャールズは、ここで大胆にも「lover」（恋人）という表現を使いました。そして、それが故に、この賛美歌は1740年の『賛美歌集』に他の138編の賛美歌と共に収められているものの、その後しばらくの間、歌われることはありませんでした。今ではこれほど有名なチャールズの賛美歌ですが、実際に歌われるようになったのは、チャールズとジョンの没後のことです。そして、この兄弟の間には、理性的な兄の判断と、どちらかと言えば詩人でありロマンチストであった弟の違いは、明確に存在していました。「lover」という表現が、兄ジョンには、少々俗的に感じたのでしょう。他にいくつもそのような理由で兄が退けた弟の賛美歌があります。

いわゆる一般的な詩に用いる、恋愛感情の込められた「lover」という表現が、賛美歌の格式に相応しくないと兄ジョンは判断したのです。この微妙な感覚は、日本語の訳にも現れてきます。「我が魂を愛するイエスよ」と訳すると、「lover」としての情愛がイエスのものと理解され、自然にこの語からロマンティックなイメージが消えます。ところが違う訳もあります。『インマヌエル讃美歌』64番は、「我が魂の慕う主イエスよ」となっています。つまり、私はイエスさまのことを恋人（lover）のように慕っているのです。しかし、「lover」、つまり「我が魂の恋する人、イエスよ」ではなく、「我が魂の慕う主イエスよ」と、情愛ある「lover」の「熱」を表現していません。

もちろん、原詩では、「lover」はそのままです。私が今回のエッセイで記したかったことは、おそらく今でも英語圏で「lover」という表現を気にする人もいるに違いありません。でも、チャールズはこの言葉を賛美歌に賛美歌に使い、兄のジョンはそれを賛美歌集から削除する決定をし、しかし教会の歴史の流れは、この賛美歌を名曲として復活させ、その後、いくつも旋律をつけて歌い込んできました。それが教会賛美歌の歴史的な事実です。

言葉を選ぶことは大切です。しかし、「賛美歌だから、こういう言葉はふさわしくない」「ロマンチックな表現は神さまの尊厳を損なう」という理論は、神学的な頭ではわかっている、人間の持つ心の情熱、ほとぼしる思いを存分に表現する詩や音楽というメディア（賛美歌）にあっては、そのような理論は、効力を発揮しないのではないか、と思うことです。

新しい翻訳の紹介

福音讃美歌協会で編集集中の新しい讃美歌集には、『讃美歌』『聖歌』『インマヌエル讃美歌』など既存の讃美歌集からも多数の作品が収録されます。古い讃美歌でも、分かりやすく、美しいことばのものは、相当数をそのまま採用する予定ですが、中には、作品としては素晴らしいけれども、ことばが古いために、現代人には分かりにくくなっていたり、誤解を与えるものもあります。そのような作品については、新しく翻訳をして収録する予定です。現在、諸教派から選ばれた約20名の翻訳者が、百数十曲の作品の翻訳に当たっていますが、その中から4曲を紹介させていただきます。是非、編集作業、翻訳作業のためにお祈りください。

「恵みの光は 闇路を照らし」

讃87、聖441、イ156

1. 恵みの光は 闇路を照らし
悩みも望みに 変えてくださる
知恵ある神よ 愛なる神よ
2. 時代は流れて すべては変わる
恵みの光は とわに輝く
知恵ある神よ 愛なる神よ
3. 闇から差し込む きらめく光
変わらぬ優しさ あふれる恵み
知恵ある神よ 愛なる神よ
4. この世に希望と 慰め与え
輝く栄光 至る所に
知恵ある神よ 愛なる神よ

「朝露に緑が濡れて」

讃30、聖100、イ108

1. 朝露に緑が濡れて
小鳥が目覚めるとき
夜明けの静寂（しじま）の中で
あなたとともにいます
2. 柔らかな朝のそよ風
静かな海の水面（みなも）
感謝の祈りを捧げ
あなたを仰ぎ見ます
3. この世の旅路を終えて
静かに目を閉じれば
栄えの朝を迎えて
あなたとともにいます

讃=讃美歌、聖=聖歌、イ=インマヌエル讃美歌

「暗い墓の 奥深く」

聖172、イ437

1. 暗い墓の 奥深く
葬られたる わが主よ

(くりかえし)
よみがえられし 力と勝利の主
悪魔の支配をやぶり
永遠に 聖徒らとおさめん
ほめよ イエスを
いのちのきみを
2. 兵士のまもる 死のふういん
解き放たれた わが主よ
3. 死の力も よみの門（かど）も
打ち破られた わが主よ

「主から受ける 安らぎは」

聖471、イ490

1. 主から受ける 安らぎは
河のように 流れつつ
日ごとにその 豊かさを
増し加えて かぎりない

(くりかえし)
心開き 委ねよう
内に平和 満ちわたる
2. 愛の御手に 隠されて
心縛る ものはない
恐れ wave 焦りさえ
静められて 安らかに
3. 喜びにも 憂いにも
父の愛は 注がれて
すべて御手に 委ねれば
証しされる 主の誠実（まこと）

お見舞い

このたびの東日本大地震、津波、原子力発電所の事故で被災した地域の皆様に、またその地域にある被災教会の牧師先生、兄弟姉妹に、心からお見舞いを申し上げます。

大地震発生から二ヶ月以上が過ぎ、刻々と変化する被災者の方々の叫びに触れるたび、遠隔地にいたいしたことも出来ないことを申し訳なく思います。

私は、このような未曾有の災難を眼前にして、私どもが取り組んでいる教会の讃美歌の働きの意味をあらためて教えられました。神に民にとって、賛美はけっして安楽な時代の遊興ではなく、逆に常に苦難の時の力であり、守りの盾でした。これからの日本の教会に賛美においてお仕えするために、余程心を引き締めなければならないと襟を正しています。

被災地の方々とそこにある一つ一つの教会の上に、主からの豊かな癒やしと力づけがありますことをお祈りします。

エレミヤ書 17章 14節

私をいやしてください。主よ。そうすれば、私はいえましょう。私をお救い下さい。そうすれば、私は救われます。あなたこそ、私の賛美だからです。

福音讃美歌協会理事長
高橋和義

❖ INFORMATION ❖

🎵 沖縄・福音讃美歌セミナー

「福音派の讃美と新しい讃美歌集」

- 日時：2011年6月12日【日】18:00-19:30
- 場所：馬天キリスト教会
- 講演：中山信児（菅生キリスト教会牧師）

🎵 一般社団法人 福音讃美歌協会 定時総会

- 日時：2011年6月20日【月】14:00から
- 場所：OCCビル 602号室

🎵 讃美歌についての集会を企画してみませんか。

礼拝説教、伝道会、修養会、讃美についての学び、音楽奉仕者の研修や講習などに、福音讃美歌協会の理事、讃美歌委員を派遣いたします。ぜひお招きください。

・お問い合わせ：info@jeacs.org

🎵 「福音讃美歌ジャーナル」投稿募集

福音讃美歌協会の働きへのご意見、ご希望、讃美についての思い、教会での取り組みの紹介など、皆様からの投稿をお寄せください。

- ・原稿は600字以内。
- ・電子メールにテキスト書類を添付し、住所、氏名、電話番号、所属教会を明記の上、福音讃美歌協会（info@jeacs.org）までお送りください。
- ・次号（2011年10月発行予定）掲載分の締切は、2011年8月末日です。
- ・掲載誌の発送をもって採否の発表に代えさせていただきます。

＊ 会 計 報 告 ＊

2010年4月-2011年3月

■収入の部■

科 目	2010年度予算案	2010年度実績
会員負担金	1,310,000	1,180,000
正会員	750,000	750,000
準会員	60,000	60,000
賛助会員	500,000	370,000
自由献金	400,000	270,200
その他	0	149
当年度収入合計（A）	1,710,000	1,450,349
前年度繰越金	595,811	595,811
収入合計（B）	2,305,811	2,046,160

■支出の部■

科 目	2010年度予算案	2010年度実績
理事会費	60,000	47,022
委員会費	370,000	346,764
人件費	280,000	280,000
事務費	100,000	117,683
ジャーナル発行費	380,000	382,180
カンファレンス開催費	200,000	104,155
総会開催費	40,000	48,369
JEA関係費	35,000	35,000
予備費	150,000	122,740
当年度支出合計（C）	1,615,000	1,483,913
当年度収支差額（A） - （C）	95,000	-33,564
繰越額／残高 （B） - （C）	690,811	562,247

【賛助会費納入者】（2010年4月-2011年3月）

上作延キリスト教会、栗橋キリスト教会、西大寺キリスト教会、栄福音キリスト教会、菅生キリスト教会、世田谷中央教会、都賀キリスト教会、鶴ヶ島聖書教会、浜田山キリスト教会（9教会）
 赤江弘之、池田勇人、石川岩夫、石川弘司、稲垣博史・緋紗子、岩下シノブ、大島章義、大滝忠子、神谷聡子、小林義正、斎藤とし子、斎藤眞木子、高橋和江、竹中久三・節子、田村勉、辻喜男、南場安正、樋口邦彦、村松容子、三川猷児、三木智枝子、横倉知恵、匿名（23件）

【献金者】（2010年4月-2011年3月）

泉キリスト教会、大磯キリスト教会、川越聖書教会、川越聖書教会教会員、熊本キリスト教会、こどもの国キリスト教会、長津田キリスト教会、浜田山キリスト教会、浜松中沢教会、東村山キリスト教会、久居聖書教会、武蔵台キリスト福音教会、石田美子、中山信児、野田敬子、関西セミナー集会献金、匿名

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール（info@jeacs.org）で、その旨をお知らせください。

ハレルヤほうや

by yukinko



ロ-マ13:11

福音讃美歌協会・会員募集

◇会員の種別は、以下の三種類です。

正会員（教会・教団・教派等）、準会員（超教派団体・グループ等）、賛助会員（趣旨に賛同し支援してくださる教会、個人等）

◇賛助会員のお申し込みは、入会申込書をご請求いただき、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお送りください。承認後、年会費のお振込みにより入会が完了致します。

◇正会員、準会員のお申し込みにつきましては、協会へ直接お問い合わせください。

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127

名称 福音讃美歌協会

◆郵便貯金口座（ばるる）◆

番号 10500-82654721

名称 福音讃美歌協会

◆銀行口座◆

みずほ銀行 ユーカリが丘支店

普通預金 口座番号 1604668

名称 福音讃美歌協会

一般社団法人 福音讃美歌協会 JEACS

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
OCCビル 602号室

tel.03-5341-6920 fax.03-5341-6921

（いのちのことば社出版事業部内）

ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org

From Editor 編集後記

「もしも明日、世界が終わるとしても、私は今日リンゴの苗木を植えるだろう。」
マルティン・ルターのものといわれてきたことばです。出典の真偽は分かりませんが、今の気持ちにふさわしいことばとしてあげさせていただきます。三月十一日、多くの命が失われ、多くの人たちが愛する者を亡くし、住まいと生活の手段を失いました。あの日から、多くの方たちが被災地に赴き、物資を届け、がれきを片付け、被災した人々に寄り添っています。あの日以降も、私は、それまでと同じように、讃美歌集の編集をしています。この仕事をしながら、被災者した方々と被災地のことを思わない日は、一日たりともありません。そして、ずっと、この仕事の意味を考えています。
神さまは、福音讃美歌協会に讃美歌編集という苗木を委ねてくださいました。これを植えることが、この国が傷み、試みられている今、私に与えられた努めです。この働きが、主にあつて、この国にある教会と人々のために用いられることを祈ります。そして、この務めを終えた時、一度、東北へ行って、その時できることをさせていただきたいと願っています。（な）